

2003年(平成15年)12月25日 木曜日(2)

日本海に遊ぶ

京都大学水産実験所職員
上野 正博

ゴーストフィッシング

とる漁法が普及してか、に絡まって、たくさん
ら30年以上です。ウミガメやアザラシ
日本の周囲には30万個が死んでるって国際間
以上の籠が海底にある。題になったことも。
一つのカニ籠には10匹、網やロープは綿か麻、

ブイはガラスか鉄がほ
とんどでした。すぐに
腐ったり壊れたりする
ので、30年余りに学
生だった私は網やロー
プの手入れをさんざん
仕込まれたものです。
その後、安くて丈夫な
上に腐りにくい化学織
にしてみました。

でも、その腐りにく
さが幽霊漁獲を大問題
にしました。

流失した漁具は腐らな
いので、ホヤやカキな
どの付着生物に覆われ
るか海底の泥に埋もれ
てしまわない限り、ず
っと幽霊漁獲を続ける
のです。

最近、ある程度時間
がたつと分解する生分
解性プラスチックを使
って、1カ月以上海中
にあると脱出口が開く
カニ籠の開発が富山県
で始まりました。同県
水産試験場にある30
0坪の深海環境を再現
できるご自慢の飼育施
設での実験が注目され
ています。

幽霊が漁獲といつて
も季節外れの怪談話で
はありません。刺し網
やタコ壺、カニ籠(か
ご)などの漁具は、操
業中のトラブルなどで
ロープが切れたりして
なくなってしまうこと
がよくあります。こう
いう流失漁具に絡まっ
たりして魚やカニが死
んでしまうことを幽霊
漁獲といいます。



港に捨てられたバイ籠